

学びの基礎体験型学習プロジェクトのまとめ

具体的な活動や体験を通して「**学びの基礎**」を育む
幼児期の「学びの芽生え」を児童期の「学びの基礎」につなぎ、子どもたちの学ぶ力をつけます

将来を見据え
「未来を拓く」

未来づくり

人づくり

仲間づくり

「心豊か」に仲間と
力を合わせることに

自分づくり

「たくましく」自分
を成長させることに

「学びの基礎」の3つの要素

主体的に学ぶ姿勢

子どもが知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや成就感を体得すること。

学び方

具体的な活動や体験を通して学んだり、試行錯誤を繰り返しやってみたりしながら、問題解決的に学んでいくこと。

学習規範

学習規律の他に、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすること。

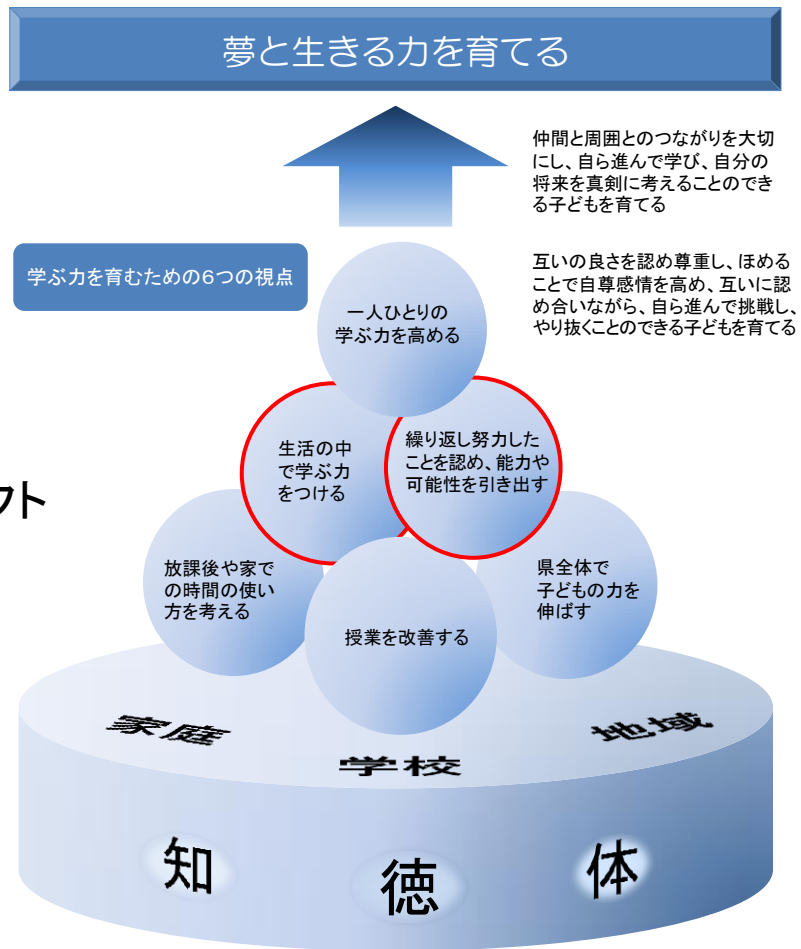
平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクトの事業についてまとめました。
研究指定校における **実践事例** を紹介しております。

平成28年3月
滋賀県教育委員会 学校教育課 幼小中教育指導係

具体的な活動や体験を通して「学びの 幼児期の「学びの芽生え」を児童期の「学びの基礎」につなぎ、子ども

学ぶ力向上 滋賀プラン

滋賀県教育委員会では、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」を育むための基盤となる「学ぶ力」を高めるため、「学ぶ力向上 滋賀プラン」を策定しました。「学ぶ力向上 滋賀プラン」では、学ぶ力をつけるための6つの視点(右図)を示し、これをもとにした6つのプランにより、子どもたちの夢と生きる力を育てることをめざしています。



学びの基礎体験型学習プロジェクト

全国学力・学習状況調査の結果から、本県の子どもたちの学ぶ姿には、学習の基本となる学びの姿勢や態度が身に付いていないことなどの課題があることが分かりました。これらの課題解決に向けては、プランで示す6つの視点の中の「生活の中で学ぶ力をつける」ことや、「繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す」ことが大切であると考え、小学校低学年において、主体的に学ぶ姿勢、学び方、学習規範など「学びの基礎」を身に付けさせることを目的とした「学びの基礎体験型学習プロジェクト」を実施することとしました。

このプロジェクトでは、幼児教育からの接続期にある低学年の児童には、具体的な活動や体験的な活動を通して「学びの基礎」を身に付けさせることが重要であると考え、就学前からの体験的な活動の指導のポイントについて「学びの基礎指導の手引き」としてまとめました。また、この手引きを活用した授業研究をすることにより、指導の重点の共通理解を図るとともに、各学校・園での実践を通して、子どもたちに「学びの基礎」を身に付けさせることをねらいとしています。

平成27年度「学びの基礎体験型学習プロジェクト」研究指定校 (下段:平成27年度「学びに向かう力育み事業」研究指定園)

第1ブロック	第2ブロック	第3ブロック	第4ブロック	第5ブロック
大津市立 膳所小学校	草津市立 玉川小学校	日野町立 南比都佐小学校	彦根市立 城北小学校	米原市立 河南小学校
大津市立 膳所幼稚園	草津市立 玉川幼稚園	日野町立 南比都佐幼稚園	彦根市立 城北幼稚園	米原市立 かなん認定こども園

基礎」を育む

たちの学ぶ力をつける

事業の流れ

平成26年度3月

・平成27年度事業指定校の募集

・平成27年度事業指定校の決定

平成27年度4月

・学びの基礎指導の手引き(冊子)の配付
(研究指定校のみ)

・各指定校における研究課題の設定
(実態に応じた取組の重点の焦点化)

6月

・学びの基礎指導の手引き(リーフレット版
右図)の配付
(県内公立幼稚園小学校全教員に配付)

8月

・各指定校へ指導主事、大学教授等の
派遣
(研究の進捗状況の把握・指導助言)

・公開授業研究協議会
県内5ブロックにおいて開催

10月～11月

10月 6日(火)彦根市立城北小学校

11月10日(火)日野町立南比都佐小学校

13日(金)草津市立玉川小学校

19日(木)大津市立膳所小学校

26日(木)米原市立河南小学校

県内小学校および幼稚園・認定こども園等の職員のべ283人が参加

12月～2月

・研究のまとめ、カリキュラムの見直し
(スタートカリキュラムの作成)



未来を生きる子どもたちが枝をはり、葉を生き茂らせ、たくましい大樹となり、豊かな実実を实らせるようにするためには、大樹の幹を支える、しっかりとした根っが必要で、生きる力の要素の1つである確かな学力を育む基盤となるのが学ぶ力であり、基盤となる学ぶ力の土壌が、小学校低学年で育てたい「学びの基礎」であると考えます。

「学びの基礎」の3つの要素

主体的に学ぶ姿勢

子どもが知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや成就感を体得すること。

学び方

具体的な活動や体験を通して学んだり、試行錯誤を繰り返してやってみたりしながら、問題解決的に学んでいくこと。

学習規範

学習規律の他に、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすること。

平成27年4月
滋賀県教育委員会

幼児教育と小学校教育の円滑な接続

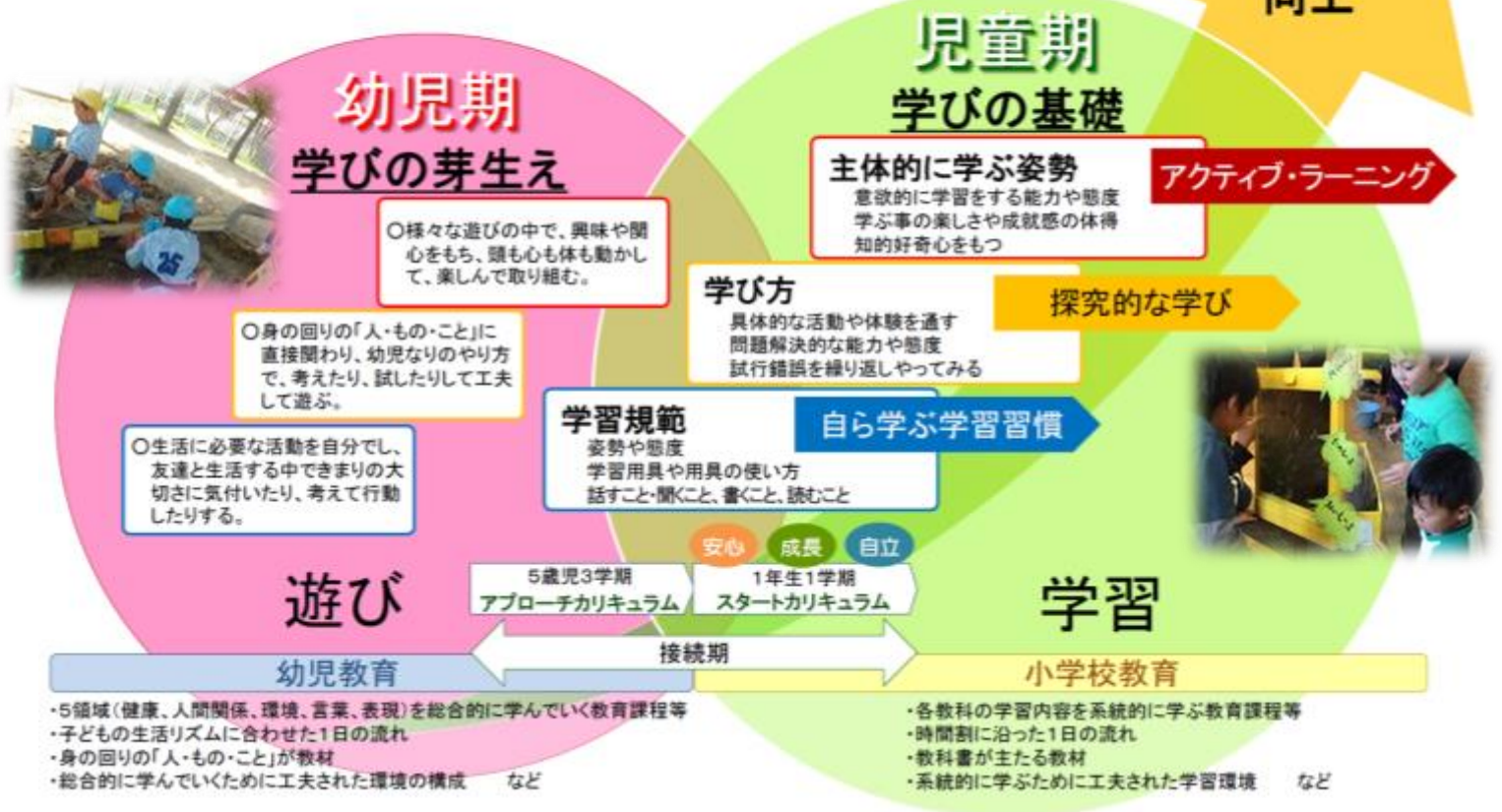
学びの芽生えと学びの基礎をつなぐアプローチカリキュラムと

幼児期の「学びの芽生え」を児童期の「学びの基礎」につなげることで、子どもは安心し、自信をもって成長し、自立への基礎を育んでいきます。

「学びの基礎」を低学年の児童に身に付けさせるうえで留意することは、「幼稚園教育要領」等にねらいや内容として示されている5つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）とのつながりを考えることと、幼児教育で培われる「学びの芽生え」を生かすということです。

下図のように、幼児期の子どもは、遊びを中心とした生活の中で、様々な対象（人・もの・こと）と直接的・具体的な体験を通して学んでいきます。幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程に基づいて実施されています。そして、児童期の教育は、各教科の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。

このことから、幼児期から児童期への接続期には、学校生活に円滑に移行していくためのアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが必要となります。



〔「スタートカリキュラム スタートブック」(国立教育政策研究所 平成27年1月)を参考に作成〕

<参考> 幼児教育の5領域の内容 【「幼稚園教育要領」(文部科学省 平成20年10月)より】

- ・心身の健康に関する領域 ……「健康」
- ・人とのかかわりに関する領域 ……「人間関係」
- ・身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」
- ・言葉の獲得に関する領域 ……「言葉」
- ・感性と表現に関する領域 ……「表現」

5領域の内容については、「保育所保育指針」(厚生労働省 平成20年3月)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成26年4月)にも示されており、子どもの生活や遊びを通して相互に関連をもちながら、総合的に展開されるものであるとしている。

をめざして

スタートカリキュラムの必要性

研究指定校の取組事例Ⅰ

5歳時をⅠ期～Ⅴ期に分けて考えるアプローチカリキュラムの例

平成27年度学びに向かう力、人間性を高める取組推進事業指定園日野町立南比都佐幼稚園作成

幼稚園のアプローチカリキュラム（日野町立南比都佐幼稚園 5歳児）

小学校のアプローチカリキュラム（5歳児）

期	Ⅰ期(入園～5月)	Ⅱ期(6～7月)	Ⅲ期(1～3月)	Ⅳ期(4～5月)
発達の過程	○自分の好きな遊びを通して、友達とかわって行こうとする時期	○気の合う友だちと試したり工夫したりして遊びを進める時期	○一人一人が力を発揮しながら、意欲的に遊びや生活を進める時期	○入学した喜びをもち、友だちや学校に慣れようとする時期
幼児の姿	・遊んで新しい生活に戸惑う姿も見られるが、年長になったことを喜び次第に安定していく。 ・いろいろな遊びに興味や関心を持って友達と一緒に遊びを楽しむ。中にはやりたい遊びが見つからず、遊びの場を転々とする子もいる。 ・4歳児と優しくかかわる姿も見られる。 ・戸外で活動することが好き、活動量も多くなる。	・友達を求める気持ちが強くなり、気のあった友達と遊ぶようになるが、意見の違いからぶつかり合いが生じることもある。 ・身の回りの自然現象や事物に関して興味・関心が高まり感じたことを友達と知らせたり、園で調べたりする様子が見られる。	・小学校に入園の話題が多くなり、もうすぐ1年生になるという期待や喜びが見える。 ・友だちと一緒にお正月遊びを遊ぶ姿や身近な自然現象に関心を持ち一緒に遊ぶ中で気づいたことを伝え合う姿が見られる。 ・生活や遊びの見通しがあるようになり積極的に取り組む行動が見られる。	・入学した喜びでわくわくした姿が見られる。 ・他園の子とも遊ぶ姿が見られる。 ・校舎内を興味津々で探検する姿が見られる。 ・学校の道具等で遊ぶ姿が見られる。 ・学習への意欲や望みをもって学習に向かう姿が見られる。
幼小連携のねらい	☆年長になった喜びと自覚を持ち園生活を楽しむ(4歳児に優しく関わる)。 ☆小学校のお姉さん、お兄さんとの交流の内容を知り、楽しみにする。	☆友達や小学生とのつながりを深め、互いの思いを伝えあひながら遊びを進める。 ☆小学生の遊ぶ姿や活動の様子を見て刺激を受けやってみようとする。	☆小学校入学についての思いを強くし、期待や喜びを感じられるようにする。 ☆自分らしさを大切に、自信を持って行動し、協力して遊びや生活をすすめていく。 ☆一人一人の力を認め合い、かわったり共感したりしながら遊びを進める。	☆複数の園から集まってきている児童の交流をすすめていく。 ☆小学校に入学した喜びをもち、学校生活を楽しむ。 ☆2年生との交流を通して、学校生活に期待をもち、集団生活に慣れていく。
内容	幼稚園の生活の中で ・友達とかわかりながらやりたい遊びや興味のある遊びを十分に味わう。 ・感じたことを描いたり作ったりして表現を楽しむ。 ・自分の思っていることを話したり、友達の話に聞いてみる。 ・春の園に親しむ(散歩・生き物つかみなど)戸外で思いっきり体を動かす。 ・身近な自然を使って工夫して遊ぶ。	・音楽会に向けての歌の練習をする。 ・水遊びについて話を聞きあひにする。 ・身近な自然にかかわりながら興味関心を深める(栽培物の収穫や生き物の世話)。 ・砂、土、水の感触を友達と楽しみ味わう。 ・自分の体に興味を持ち健康に必要な習慣や態度を身につける。 ・親子の広場の準備をする。	・年賀状やかるた、すごろく遊びなどを通して文字、数への関心が高まるような遊びをする。 ・冬の身近な事象を取り入れて遊ぶことにより、季節の変化に興味・関心が持てるようになる。 ・劇遊びや楽器遊びをすることによって友だちや仲間と力を合わせることの大切さを知る。 ・学校ごっこ遊びを通して楽しむ。 ・お別れ会の行事を通して園生活を振り返る中で自信や感謝の気持ちを持つ。	・自己紹介や集団遊びを通して新しい友だちや先生とふれあひを深め、楽しい学校生活を送ろうとする。 ・学校の目録など学校の一日の流れを知り、毎日の生活を規則正しく送ろうとする。 ・学校の施設や働いている人々に関心をもち、積極的に学校探検をして見つけたことやわかったことを発表する。 ・具体物や遊びを通して10までの数やひらがなを学習する。
環境	△小学生が来てくれた時やさしく受け入れる。特に1年生には学校での様子を聞く。 △小学校の授業の様子を丁寧にみる。 △小学校の授業の邪魔にならないように配慮して進ませる。(特に運動場での授業) △教師同士の話し合いを十分に持ち、年間計画を立てる。家庭訪問について日程の調整をする。 △小学校の各学年の授業を参観し卒園の様子を知る。	△音楽会保護者案内、プログラムなどの作成。 △全校合唱、職員の出し物等事前の打ち合わせと練習をしておく。 △プール使用規定等事前把握を確実にする。 △子ども達の交流の様子や動きを丁寧に把握する。 △4年生担任との打ち合わせを密にしておく。	△1年間の様々な交流の中で優しく受け入れ寄り添ってくれた人に感謝の気持ちを持つ。特に4年生に感謝の気持ちを表す。 ●1日入学や就学時健康診断等で1年生の様子を見てより慣れや期待を持つ。 ●生活発表会のリハーサルを1年生に見て喜び自信を持つ。 ●1年生が「6年生を送る会」にした劇や合奏を見て、自分たちもあんな感じがしたい、やりたい気持ちになり、真似てやってみる。 ●幼小連携会で子ども・家庭についての連携を密にする。	△幼稚園児についての引き継ぎをする。 △参観の準備や掃除の仕方など文字よりも絵で示すようにする。 △2年生との合同学習をすることにより行動がスムーズにできるようにする。
園行事	入園式 検便 検尿 蛭虫検査 保育参観 通足 健康診断 家庭訪問 交通安全教室 身体測定 誕生会(誕生時のいる月)	南遊き指導 避難訓練 保育参観 安全教室(プール指導 夏休みに向けて)福祉施設訪問 七夕会 親子の広場 終業式	始業式 避難訓練 福祉施設訪問 祖父母参観 部分遊び 生活発表会 ひな祭り会 お別れ会 卒園式	入学式・避難訓練 通足・1年生を迎える会 学習参観 教師の合同研修会
連携行事	教師合同研修会(交流について、年間計画) 家庭訪問日程調整 音楽会について 4年生との交流のペーパー決定 野入学児童参観会	音楽会 プール開き 4年生とさつまいも植え 1年生と交流 1・2年生と交流 教師合同研修会(1学期取り組み反省)	就学時健康診断 生活発表会参観 送る会参観発表 1日入学 教師の合同研究会(反省)	

週単位で考えるスタートカリキュラムの例

平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクト指定校日野町立南比都佐小学校作成

第1週 4月10日～14日 第2週 4月17日～21日 第3週 4月24日～28日

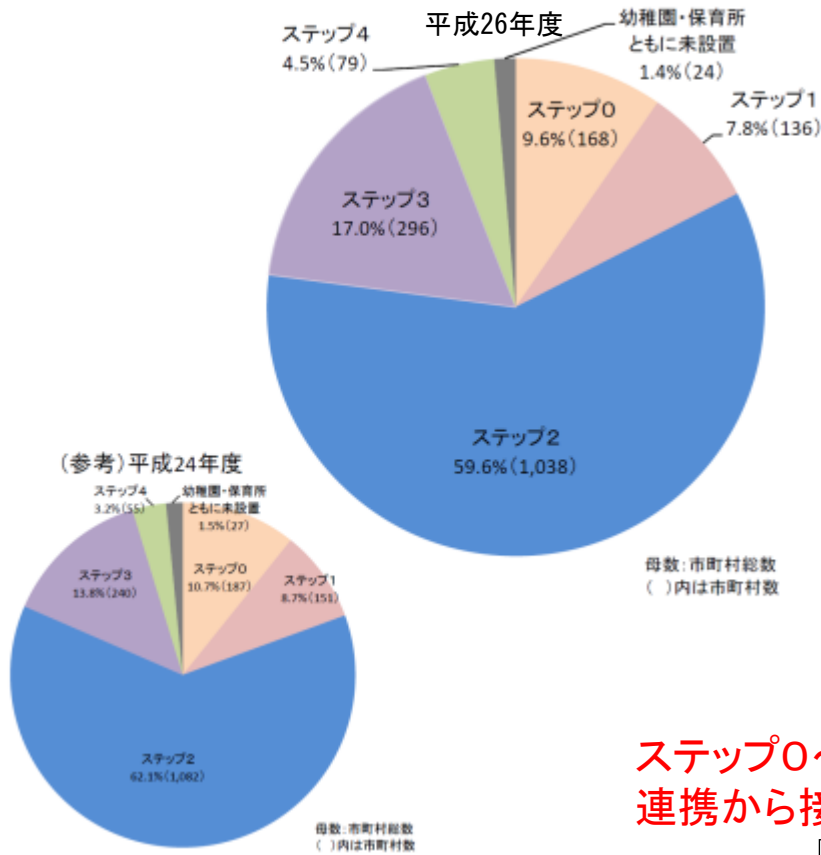
○はじめまして 小学校 ○きちんと守ろう 学校のきまり ○名前をたくさん覚えよう
 学校にはどんな場所どんな物があるかにつき、学校生活の様子をわかる 学校や学級のきまりを守って、安心して過ごすことができる 先生や上級生の名前をよく覚えて、握手を交わることができる

10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)	17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)	
行事日	入学式	新入園会	給食開始		行事日					行事日					
朝の会	朝の活動と朝の歌を一緒に全員でやる。 ・シラジツク朝の歌は、シラジツクをロッカーに片付ける。 ・自分の席に着き、お歌がきどをする。 ・朝の挨拶 健康観察				朝の会	朝の挨拶 健康観察を行う 朝の活動を確認する				朝の会	挨拶・朝の歌・健康観察・提出物の確認等				
朝学習					朝学習					朝学習					
1	入学式 学級活動 今日から1年生 担任紹介 教科書配布の 説明	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	1	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	1	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活	生活 生活 生活 生活 1. 生活 生活 生活 生活 2. 生活 生活 生活 生活 3. 生活 生活 生活 生活 4. 生活 生活 生活 生活
2					2					2					
3					3					3					
4					4					4					
5					5					5					
年中の 子ども 下校 後援校															

幼小連携から幼小接続への発展に向けて

幼小接続の現状 「平成26年度幼児教育実態調査」より 平成27年10月文部科学省初等中等教育局幼児教育課

- 各市町村における幼稚園・保育所における学校教育・保育と小学校教育との連携・接続の状況については、「ステップ2」が59.6% (1,038市町村)と最も多く、「ステップ3」、「ステップ0」、「ステップ1」、「ステップ4」と続く。



連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安 (幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(平成22年11月11日 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議))

ステップ0: 連携の予定・計画がまだ無い。

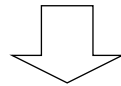
ステップ1: 連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。

ステップ2: 年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

ステップ3: 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。

ステップ4: 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

ステップ0～2は若干減り、ステップ4、5は微増
連携から接続への更なる発展が望まれる



研究指定校の取組事例Ⅱ

幼小協働による教育課程の編成と実施の事例①

ステップ2からステップ3、ステップ4への取組

入り込み授業

平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクト
指定校大津市立膳所小学校の取組

年数回の公開授業や公開保育を互いに参観する段階(ステップ2)の次のステップとして、小学校の教員が幼稚園・認定こども園等で保育をする入り込み授業が考えられます。

接続を見通した保育の実践について、小学校と幼稚園・認定こども園等の協働による入り込み授業には、円滑な接続に向けて2つの効果が考えられます。

1つは、就学する園児の様子を小学校教員がつぶさに知ることができるということです。もう1つは、小学校入学時に顔見知りの先生が学校にいるという安心感を入学間もない児童に与えることができるということです。



幼小協働による教育課程の教育課程の編成と実施の事例② スタートカリキュラムの作成

滋賀県小・中学校教育課程研究協議会生活部会において、スタートカリキュラム「スタートブック」（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月）を使って、次年度の第1週・第2週の週予定の作成をしました。

作成に当たっては、グループの中に幼児教育に携わる者（幼稚園教諭、保育士等）の指導助言を受けて、子どもの実態に即したカリキュラムの作成と検討をすることができました。

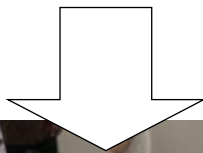


ミニブックの写真に吹き出しを付けながら話し合う小学校教員と幼児教育職員

スタートカリキュラム「ミニブック」 スタートカリキュラム「スタートブック」
（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月）



方眼模造紙を使い、2週間分の枠を作る。75mm角の3色の付箋紙を使って学習活動を配列する。



幼稚園では、どんな歌を歌っているのですか？



幼稚園教諭や保育士等のアドバイスを心得、カリキュラムのブラッシュアップを図る

完成！



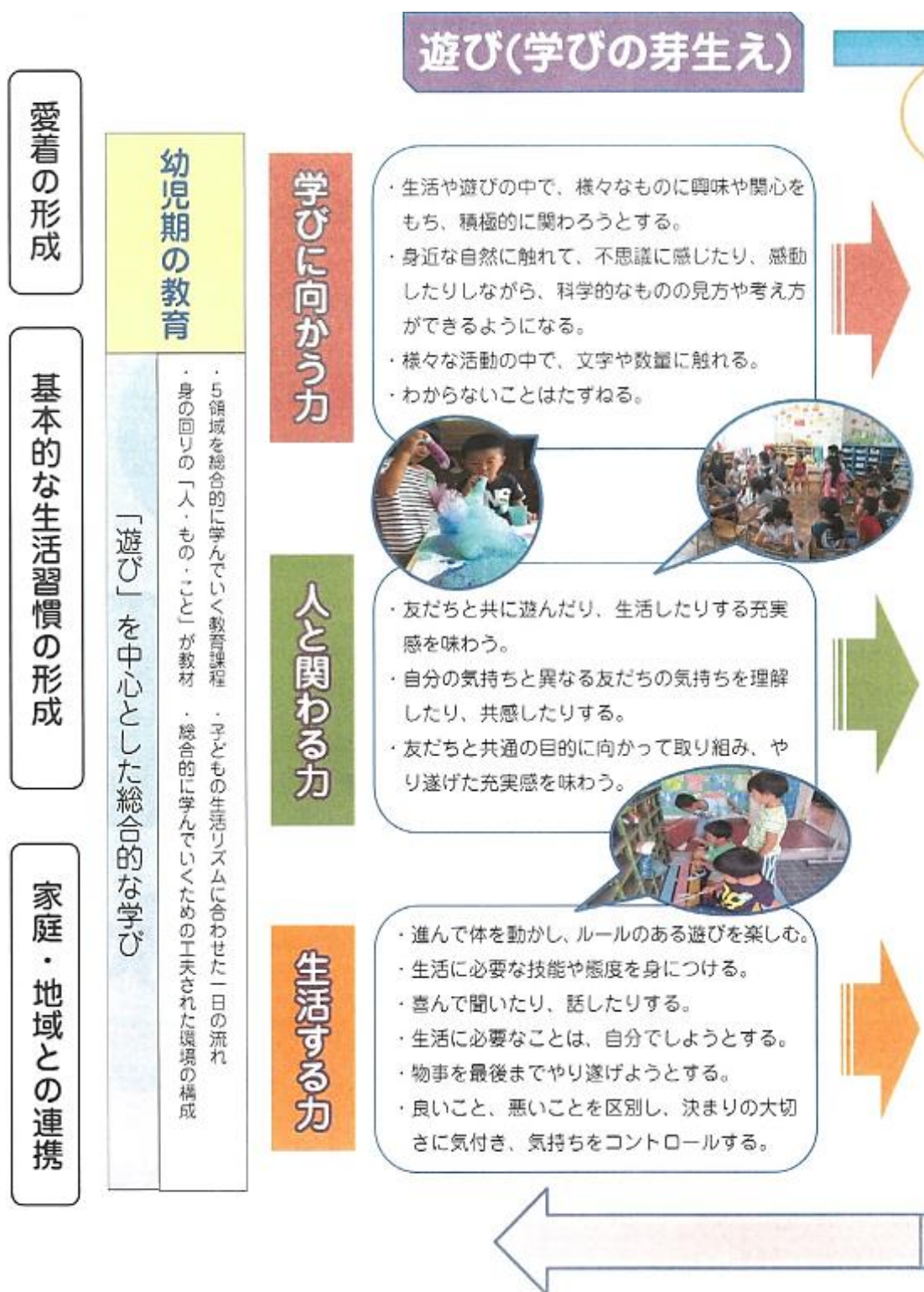
給食準備の指導は幼稚園でもしているから、指導の時間は・・・

幼稚園教諭、保育士等の
助言

幼児期の学びの芽生えから小学校 教育へつなぐ円滑な接続に向けての取組

遊びから学びへ

研究指定校の取組事例Ⅲ





①主体的に学ぶ姿勢

子どもが知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶ事の楽しさや成就感を体得すること。

幼児教育

学びの基礎

■体を動かす

- いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

「健康」

■自立心を育てる

- 自分で考え、自分で行動する。
- 自分でできることは自分でする。
- いろいろな遊びを楽しみながらやり遂げようとする気持ちをもつ。

「人間関係」

■興味や関心をもつ

- 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- 日常生活の中で数量や図形、簡単な標識や文字などに関心をもつ。

「環境」

■本に親しみ、想像する

- 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

「言葉」

■伝え合う楽しさを味わう

- 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

「表現」

【意欲的に学習をする能力や態度】

- 学ぶことに興味をもつ。
- わからないことは、自分で調べる。
- 自ら考え行動しようとする気持ちをもつ。
- がんばったことやできるようになったことに自信をもつ。
- 新たな問題に果敢にチャレンジしようとする。
- 思い切り体を動かして汗をかく。

なぜかなあ？
ふしぎだなあ。

やったあ！
自分でできたよ。

【学ぶことの楽しさや成就感の体得】

- 人と関わりを持つことにうれしさを感じる。
- 自分だけでなく、仲間と協働して解決する。
- 友だちとの触れ合いの中で、自己を発揮する。
- 認められることで自己存在感や充実感を味わう。
- 新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わう。

わっ！
おもしろそう。

【知的好奇心をもつ】

- 興味や関心が芽生えたことに夢中になる。
- 文字や数に興味をもつ。自然に興味をもつ。
- もっとやってみいたいという気持ちをもつ。

指導のポイント

安心 成長 自立

■しっかりほめる、認める、評価する 成長

- ・周りの子どもも「できているな」とわかることや子ども自身も「できているな」と感じていること、自分で気づいていないこと（教師が価値づける）をほめる。
- ・自ら進んでしてきたことや進歩がなくても続けていることを認め、定期的に、客観的な評価をする。

■共感する 安心

- ・「わかった」瞬間に一緒に喜ぶ。
- ・子どもの思いに寄り添う。

■知的好奇心を刺激する 自立

- ・子どもが感性を揺さぶられることによって芽生える興味や関心を大切にする。
- ・少しだけ難しいこと（さらに良いこと）を伝えて、期待していることを示す。
- ・既知と未知との「ずれ」を意識させる
- ・予想を取り入れて、課題を自分事にする。

不思議だなあ、おもしろそうだなあ、やってみたいなあ、どうなっているのだろうなど、興味や関心が芽生える体験や導入の工夫が大切です。このことは、中学年以降の主体的に学ぶ意欲を育てることにつながります。



研究指定校の取組事例Ⅳ

事例1 国語科

「本との出会い・読書へのいざない」

【読み聞かせ】

読み聞かせによる読書へのいざないは、本に親しみ、語彙力をつけるのに、効果的です。学級担任が他の学級へ読み聞かせに行ったり、読書ボランティアや学校図書館司書の活用も有効的です。



平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクト指定校草津市立玉川小学校の取組



【読書による異年齢交流】

1年生と2年生の図書館利用の交流を定期的に行うことにより、主体的な読書の機会が増えます。また、「良書」よりも「適書」と言われるように、子どもの興味や関心にあった本を選ぶことも大切なポイントです。

事例2 体育科

「にんじゃのしゅぎょう」

【なりきって遊ぶ】

入学当初の体育の授業では、遊びの要素を取り入れたり、子どもが何かになりきれ活動を取り入れたりすることで、子どもが意欲的に、集中して体を動かす主体的な学びにつながります。

にんじゃは子どもが大好きなキャラクターです。しゅぎょうという言葉も、子どもの学ぶ意欲をくすぐります。

平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクト指定校
米原市立河南小学校の取組



目の前に飛び越える目標があると、活動に取り組みやすく、上手く飛び越えられた時の達成感も高まります。



やったあ！
こえられた

事例3 国語「くじらぐも」

【お話の世界に浸ってして表現する】

セーフティマットを雲にみたくて、場面の様子を想像し、その様子が表れるように表現します。くじらぐもの上に乗った時の登場人物の気持ちについて想像がふくらみ、豊かに表現することにつながります。

平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクト指定校
彦根市立城北小学校の取組



アクティブ・ラーニングにつながります

低学年において、子どもが知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶ事の楽しさや成就感を体得することは、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習、いわゆる「アクティブ・ラーニング」につながっていきます。

学ぶことの楽しさや成就感を体得するためには、具体的な活動や体験を通すことが重要です。

②学び方

具体的な活動や体験を通して学んだり、試行錯誤を繰り返しやってみたりするという問題解決的な学び方。

幼児教育

■見通しを持つ

- 生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 「健康」

■人とかかわる

- 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする 「人間関係」

■発見を楽しみ、考える

- 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 「環境」

■自分の言葉で話す

- したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 「言葉」

■表現を楽しみ、工夫する

- 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 「表現」

学びの基礎

【具体的な活動や体験を通す】

- 直接触ったり、操作したりして考える。
- 身近なものやことを見たり、聞いたりする。
- 教室の中だけでなく、外に出て活動する。
- 人とかかわり、一緒に活動したり、つくったりする。
- 身の回りにあるものを自分と一体として理解する。

見てみたい。
さわってみたい。
やってみたい。

【問題解決的な能力や態度】

- 自分たちで問題を見つけて、解決しようとする。
- これまでに学んだことを使って問題を解決する。
- 自分なりのやり方で取り組む。
- 環境に好奇心や探究心をもってかかわる。
- 仲間とともに問題を解決する。

あっ！
できそうだ。

【試行錯誤を繰り返しやってみる】

- 試行錯誤を繰り返す中で、新たなものを創造する。
- 繰り返し努力することをいとわない、または、楽しむ。
- 失敗してもあきらめずに、最後までやりきる。

もっとやっ
てみたい。

指導のポイント

安心 成長 自立

■身近な事象を取り扱う

安心

- ・子どもたちの身のまわりにあるものを教材化する。
- ・子どもにとっての必然性の高いものを教材化する。
- ・児童が思いついた方法をすぐに試せるような環境を用意する。

■活動に没頭できるようにする

成長

- ・時間や場所にゆとり持つこと
- ・上手いかなかった理由を考えて失敗を生かす。
- ・繰り返し学ぶこと、あきらめずに学び続けることを価値づけて、意欲を持続させる。

■子どもの多様性を保障する

自立

- ・子どもの創意工夫を生かし、イメージを広げる。
- ・出来栄ではなく、学びの過程を評価する。
- ・一人ひとりの表現や思いを大切に作る集団づくり。

■共同的な学びにする

成長

- ・グループで学び合う活動や、自分の考えを伝え合う活動を取り入れた共同的な学びにする。

「まずはやってみる」「繰り返しやる」「続けてやる」「やろうと思えばできる」等、子どもに自分なりのやり方でやりきらせることが大切です。上手いかなくても、粘り強く課題に取り組む力や探究する心を育てます。

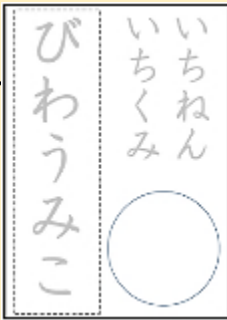


具体的事例

事例1 国語科・図画工作科等 「よろしくねカード」で仲良くなる 入学直後のスタートカリキュラムに最適

【国語科：名前をかく】

ひらがなの読み書きを学習し始めたばかりの子どもたちの「自分の名前を書きたい」という思いを大切に、整えた字を書くという技能が未熟であるという時期でもあることを踏まえ、無理のないカードづくりをすることが大切です。例えば、カードにはあらかじめお手本を薄く書いておき、それをなぞることから始めるなどの配慮をするなど、子どもが安心して取り組めるようにします。



「よろしくねカード」の例

【図画工作科：好きな〇〇をかく】

カードの〇の部分には、自分の好きなものをかかせます。「自分の好きな食べ物」「自分の好きな虫」「自分の好きな人」など、自由な発想で思い切りかかせます。うまく絵がかけない子どもには、大きめのスタンプを丸の中に押ししたり、好きな色のパスを選んでぬったりして、意欲がわくような支援を工夫します。

【国語科：「よろしくねカード」を交換する】

全員で交換する前に、ペアやグループで練習しておく、自信をもって活動に取り組めます。拡大図を用意するなど視覚支援の他、「話す型」(③学習規範を参照)を準備しておくことも、子どもにとっての安心材料になるでしょう。言葉で相手に伝えるという活動そのものを楽しめるように、教材の準備を入念にしておきます。

事例2 生活科 「動くおもちゃづくり」

ー 試行錯誤・多様性を大切にするー

動くおもちゃづくりの学習は、身近にある自然や物を使って工夫をして、素材の面白さや自然の不思議さに気付いていく活動です。気付きの質を高めるという視点から、試行錯誤がしやすい「ゴム」を使うことが多いです。大小のゴムや太さが違うゴムなど力の大きさの違いによって、法則性に気付かせようとする授業も見られます。しかし、これが行き過ぎてしまうと「自分が工夫をしてつくった動くおもちゃ」という子どもの思いや願いからは離れていってしまいます。

学習指導要領解説には、身近にある素材として、紙、ひも、ポリ袋、空き缶、空き箱、ストロー、割り箸、ペットボトル、牛乳パック、紙コップ、トレイ、輪ゴム、磁石などが例示されています。「面白さや不思議さ」は、素材の多様さや試行錯誤の中から生まれるのです。

事例3 特別活動 「雨の日の遊びを決めよう」

学校のルール範囲内で、雨の日の遊びのきまりや方法を自分たちで話し合い、きまりをつくって守ったり楽しく遊んだりすることで、学級集団の秩序をつくり、子どもたちの規範意識を育てます。

学級会では子どもたちの話し合いを見守ることが基本になりますが、事前の指導は子どもたちがよりよい集団決定ができるように積極的に行うことが必要です。楽しく豊かな学級の生活をつくりたいという課題意識をもって、自分たちで問題を見付けたり話し合ったりして解決することを通して、周りの子どもと仲よく助け合い、身近な人に親切にし、みんなのために活動するなど自発的、自治的に学級生活を楽しくしようとする態度を育成します。

低学年での学級会活動での成功体験から、自分たちでよい学級を作ろうという気持ちが芽生え、高学年になるとそれが、学校をよくしていこうという気持ちに発展していきます。

探究的な学習につながります

子どもが試行錯誤を繰り返しながら学んでいく「学び方」は、中学年以降の探究的な学習につながっていきます。

自分なりのやり方や多様性を保障することは、「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」という、問題解決的な学びのプロセスを大切にすることであり、学びの質や深まりを重要視することです

③ 学習規範

姿勢や態度の他に、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすること。

幼児教育

■健康な心と身体を育てる

- 健康な生活のリズムを身に付ける。
- 生活に必要な活動を自分でする。

「健康」

■規範意識の芽生えを培う

- よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。

「人間関係」

■生命やものを大切にする

- 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- 身近な物を大切に作る。

「環境」

■話を聞く、話す

- 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- 親しみをもって日常のあいさつをする。

「言葉」

学びの基礎

【姿勢や態度】

- 先生や友達の話をしっかり聞く。
- 学習中、姿勢を保つ。
- 身の回りの整理整頓をする。
- 授業と休み時間の区別など時間を守る。
- 学習課題にすぐに取り組む。
- 下敷きを敷いて、ノートをとる。板書を写す。

片づけると気持ちいいな。

【学習用具や用具の使い方】

- 学習に必要な用具が揃っている。
(不要な物は持ってこない)
- 正しい鉛筆の持ち方で文字を書く。
- 学習用具を大切に作る。

準備ができていると安心。

【話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと】

- 黙って手を上げて、指名されてから発表する。
- 話を聞くときは、話し手の目を見る。
- 自分の考えたことを書く。

みんなに知らせたいな。

指導のポイント

安心 成長 自立

■共通理解から共通実践へ

安心

- ・全校で統一した約束で指導する。
- ・誰もが分かるようにする（例：各教室に掲示する、ガイドブックを作る、保護者にも説明する等）
- ・できたことをほめ、認めることで、学習習慣の定着を図る。

■成長を見守る

成長

- ・指導の重点を絞って取り組む。
- ・変化が見られるまで粘り強く続ける。
- ・実現可能な目標を立ててレベルアップを図る。

■自立への基礎を養う

自立

- ・自分でできることは自分でさせる。
- ・自分たちで決めた約束は必ず守らせる。
- ・成長や伸びを子どもにフィードバックする。

約束事を自分たちで決めるようにし、それを守れたらほめる。そのことで、みんなで決めた約束を守る気持ちよさや、守れた喜び(自信)を味わわせることが大切です。そして、さらに次も頑張ろうとする意欲や、仲間のよさの実感、自分の成長の実感につなげましょう。



研究指定校の取組事例 V

事例1

「ノートづくり方」

【ゆっくり、しっかり、丁寧に】

書くことへの抵抗感を少しでも軽減する目的で、プリント学習をすることがありますが、低学年でできるだけノートをつくるという経験をしておくことが重要です。

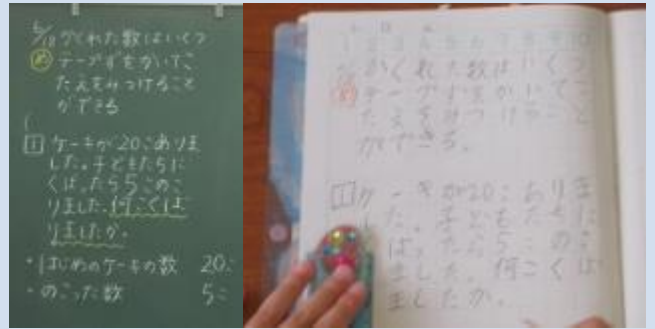
時間がかかっても、しっかりと丁寧に書くことを評価する時、「次も頑張って書こう」という気持ちにつながります。

【板書はノートの手本】

教師の板書の字の形や字配り、筆順に至るまで子どもはそのまま真似てノートに書きます。教師自身が丁寧に板書に心がけましょう。また、丁寧に整った板書は、授業に良い緊張感を作ります。

【板書とノートの連動】

ノートを使い始める時期には、子どもの使うノートのマス目を考えて板書の改行をします。こうすることで、板書とノートが連動し、子ども自身が板書をしっかりと写せたという実感を得ることができます。

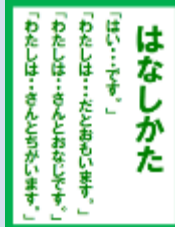
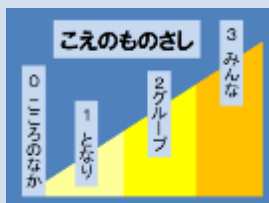


事例2

「話す・聞く」

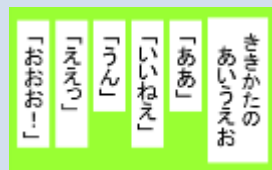
【話す型・声のものさし】

あらかじめ「話す型」を示しておくことで、子どもが安心して話すことができるようになります。「声のものさし」も話し方をお互いに確かめ合うのに効果的です。



【人の話の聞き方】

子どもが自信をもって話せるためには、みんなに聞いてもらえるという学級風土が必要です。



事例3

平成27年度学びの基礎体験型学習プロジェクト
指定校草津市立玉川小学校の取組

「思いや考えを自分の言葉で表現し、仲間とつながる子どもを育てる」

発表する時は「～です。」と丁寧な言葉で相手に聞こえるようにはきはきと話すことや、聞く時は姿勢を正して最後までしっかり聞くことで、対話による仲間とのつながりが豊かになります。



自発的な学習習慣につながります

学びの姿勢や態度の他、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすることにおける学習規範は、集団や実生活の中で人とのかわりを通して、体験的に育成されます。

実体験を通して育成された学習規範は、自ら学ぶ学習習慣の定着につながります。



平成27年度 学びの基礎体験型学習プロジェクトのまとめ
平成28年3月発行
滋賀県教育委員会 学校教育課 幼小中教育指導係
〒520-8577 大津市京町四丁目